

ほおづえ

第9号

目次

- 1 副会長あいさつ
- 2 建築学科主任あいさつ
- 3 支部便り
- 4 会員短信
- 5 学内NEWS
- 8 ほおづえ会からのお知らせ

出会いの場として

副会長 水上 勝之 (8期)

早いもので、ほおづえ会発足から約6年の歳月がたち、卒業生、在校生含めて総勢千数百名を擁するにいたっております。この間、北陸支部および関東支部が発足し、それぞれの活動を開始しており、また中部、関西支部設立の動きもあると聞き、大変うれしく思っている次第であります。

ところが、会の発足当時から私もこの同窓会に携わっておりますが、その当時から世話をいただいている顔ぶれにほとんど変化がありません。ほとんどが1期生から20期生前後までの方たちでしめられております。もっと若年層の方がたに参加していただいて、会の若返りをはかりたいと切に思っておりますのでぜひともみなさんの参加、ご協力をよろしく願いたします。

最近、世の中が混沌としており、人と人、また地域との交わりが非常に希薄に感じられます。以前、私自身も地域との交流はほとんどありませんでした。しかし、最近ある事がきっかけで地域活動に参加することになり、そこで多くの人と出会い、人と交わる大切さを感じました。ほおづえ会も年齢差、性別を越えた喜びを感じられる出会いの場になることを望んでいます。

建築学科主任あいさつ

建築学科 主任 河内 浩志

皆さんいかがお過ごしでしょうか？ 今年の5月14日（日）に開催されました「ほおづえ会（北陸支部）：パーベキュー大会」には、大勢の方が集まりました。学校からも在校生40人余りと教官6人（内田、船戸、佐藤、熊澤；御夫妻、河内；家族と設備非常勤の鈴木先生；御夫妻；合計参加者70人余り？）が参加し、楽しい時間を過ごすことができました。この誌面をお借りしまして、感謝の気持ちをお伝え致します。本当にありがとうございました。特にその場で気づいたことは、先輩方の後輩に対する豊かな心配りと、至れり尽くせりの暖かな愛情に感激したことでした。後片付けの最後までお手伝い出来なかった参加学生は、それに対してどの様に感じていたのでしょうか？ 日ごろの教育の欠点なのか、何か今後の大きな課題を感じた次第です。私達教官サイドにとりまして幸運だったことは、古参のOBの方々（前会長；野手氏、石川高専同窓会長；本田氏、ほおづえ会会長；宮川氏、同副会長；吉田氏、山内支部長等々）との会話から、建設業界の動きや就職情報、産官学の連携、学校の教育・研究の多岐に渡り、貴重なご意見やご提言を拝聴し、さらに建築学科に対しても、心からのご支援のお話を伺うことができ全く心強く感じました。この様なOBの方々との懇親の場は、学内に閉じこもりがちな我々にとって、産業界の動きをいち早く知る機会になると痛感しました。

さて、平成12年度の4月に入っの、石川高専建築学科の動向を簡単にお伝え致します。先ず、熊澤栄二先生と佐藤英代先生（1月にご結婚）が、4月から助教授に昇格されました。石渡博先生が、4月16日～9月30日まで、ロンドン大学のカレッジ、UCL（University College London）のThe Bartlett Graduate School of Architectureに文部省の在外研究員として留学されています。昨年12月の船戸慶輔先生の学位取得に引き続き、北田幸彦先生が、3月に金沢大学より博士（工学）の学位を取得されました。また、非常勤講師としては、環境工学のご講義を金沢工大の土田義郎先生（天野先生の後任）にご担当して頂くことになりました。環境建設工学専攻科（本年度開設・大学の3年生と4年生に当たる）には、建築学科から定員4人に対して8人の入学があり、手探りながら本科の学生とは異なった新しい風を吹き込んでくれています。来年度は、既に4人の推薦入学者が決定され、定員を超えて学力試験でも追加学生を取る勢いです。

昨年から公開講座（4月～6月、9月）として「ほおづえ会」（講師：今村哲氏・本田昌義氏・寺嶋清人氏・山内隆氏、中村昭英先生・谷重義行先生と河内の計7人）と共同開催事業として、2級建築士程度実力を目標に、毎日曜日（6回＋2回）の朝から「フレッシュマンの為の建築ゼミナール2000」（受講生約20人）を開催しております。

特に、今年の9月1日（金）と2日（土）には、「全国高専建築シンポ・コンペ」が、石川高専建築学科の主催で開催されます。津幡町の中心市街地を舞台にして、一辺1820mmの立体フレームの中に：「街の中に住み込むためのBOX」（北國新聞；後援）の課題でアイデアを募集します。競技よりも参加し楽しむことに重点を置いています。二段階のコンペで、一段階をパスした作品を9月2日の限られた時間の中で制作し、審査員：小嶋一浩（シーラカンス）氏によって講評して頂きます。加えて、9月3日（日）には、津幡町の「どまんなかフェスタ」でも展示し、フェスタ自体にも商工会や津幡町行政、関係機関の方々とも協力して行くつもりです。また、津幡町から石川高専建築学科に対して、大口の受託研究の申込という嬉しい連絡が事務部長から（この文面を書いている今）ありましたのでお知らせいたします。今年の3月に津幡町の福祉センターで開催した「津幡町中心市街地活性化」と題した、2年生～4年生の学生の課題発表（巨大モデルによる）の成果が認められたからです。津幡町からの研究申込は、石川高専にとって初めてのことであり、建築学科には、更なる受託研究があるように伺っております。このことは、文部省にも既に報告され注目されておりますし、何よりも産官学の連携を掲げる校長以下首脳陣に拍手喝采され、建築学科スタッフともども大変喜んでおります。「ほおづえ会」からもより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

報告のあった学外のこととしては、4期生の長村寛行氏が、平成12年度の石川県建築賞の県知事賞、平成11年度日本建築学会「北陸建築文化賞」を（昨年は全国建築士会連合会賞を優秀賞と平成11年度の日本木材活用コンクール（全国）では連合会長賞を）受賞されました。

8期生の長田幸則氏も昨年に引き続き平成12年度の石川県建築賞に入選されました。本学からも谷重義行先生が平成12年度の石川県事務所協会長賞を受賞されています。また、設計の分野ばかりでなく、16期生の尾崎晃氏は、第33回の全国建具展示会で知事賞等を受賞されておられます。皆さんのご努力の成果が、こういう名誉なかたちで評価されることは、本学におきましても誠に喜ばしいかぎりであります。この様なお話（去年のことにかぎらず少し前のことでも結構です）は、是非本校にもご一報下さい、在校生や卒業生、もちろん教官にも大きな目標となることでしょう。受賞者の皆様のご今後とものご活躍を祈念致します。

建築は、この様に「ものづくり」と深く関わっています。むしろ「ものづくり」そのものとも言えるでしょう。しかし現実には、大学や高専の建築教官は、この「ものづくり」教育を楽しんで実践しているところから、一定の距離を置いていると言う指摘もあります（宮脇禮氏は、日経アーキテクチャの中で、学内からの告発として「せめて建築の好きな教師を！」と発言されています。）。これは、学校や文部省の教官評価が、博士号の論文中心主義であり、最近になって来て「ものづくり」を促す言葉が出始めているわりには、未だに「ものづくり」を実践することの実質的な評価（昇格等の）が認められないことに、私自身も全く不思議に思い矛盾を強く感じています。

国立大学の学校独立法人化も決定され、高専もいよいよ自力で生きて行く時代が始まるでしょう。石川高専建築学科は、将来のことをしっかりと見据えて、教育・研究費を自前で捻出して行く厳しい時代であればこそ、脚下照顧、「建築」の原点を想起しなければなりません。正に、「建築は、人に感動を与えるものである。」と言ったのは、建築家のル・コルビュジエでした。建築術の実践を通して、真摯な「ものづくり」の心を磨き、建築主だけでなくそこに集う人に感動と喜びを与えることの出来る「建築（Architecture）」を目指したいものです。在校生が学び、卒業生が修めた石川高専建築学科は、一人よがりにならず、地域に優しい、地域の中で役にたつ技術を提供して行けるような存在になれるのでしょうか。「ほおづえ会」の皆様とのより緊密な連携をこれからも模索していきたく思います。今後とも宜しくお願い致します。

支部便り

1. 北陸支部恒例バーベキュー大会

平成12年5月14日、ほおづえ会恒例となりました懇親会（バーベキュー）が、富山県小矢部市のクロスランドおやべ、ふれあい広場にて行われました。

当日は、時折小雨の混じりの肌寒いあいにくの天気でしたが、正会員、準会員、教官、及びその家族の方々、総勢83名の多数の参加者数（過去最高）でした。

去年はあいにく雨天中止となったアトラクションの「パットゴルフ大会」が開かれまして、普段の練習の成果をいかんなく発揮された方、なかなか入らず渋い表情でコースを回る方、将来有望な（？）学生さん、等大いに盛り上がったアトラクションだったと思います。上位入賞者には豪華商品が贈られました。

またバーベキューの合間には、恒例の「ビンゴゲーム」も行われ、豪華各景品（中にはデッキブラシという珍品もありましたが）を目指し、司会者の読み上げる番号に一喜一憂しました。終始にぎやかなアトラクションになりました。

今回は準会員（学生）の参加が多かったこともあり、各バーベキューテーブルを囲んで進路の事、就職の事、これからの心構え等いろいろな質問を先輩に対してぶつけ、それに対して卒業生が熱心に答える、という光景が多く見られました。何かを得て帰った準会員も多かったかと思えます。回を重ねる毎に、懇親会本来の目的である「正会員」「準会員」「教官」の相互交流が進んでいるように思われます。

来年以降も懇親会（バーベキュー）その他ほおづえ会の行事に多数の参加をお待ちしております。

会員短信

このコーナーは、卒業生からの「このごろ」報告を短信という形で、紹介していただきたいと考えています。

近況、あるいは、卒業して今どう思うか、後輩に向けて、最近仕事をしていて・・・
現時点では会員短信としか言い様のない物で、内容にこれといった決まりはありません。

(あからさまな宣伝・広告活動でなければ、なんでもOKです。)

原稿はいつでも受け付けておりますので「ほおづえ会事務局 (hozue@anet.ne.jp)」又は「内田伸先生 (utd@ishikawa-nct.ac.jp)」までお願いします。

村田 一也 (20期 福井大学大学院)

最近、週に一度、金沢を散策している。榊田先生の著作を参考にし、地図でルートを決め、1時間半、カメラ片手に歩く。なぜか快晴の日ばかりで、汗かきながら、写真を撮りながらひたすらに歩く。市民芸術村や市立図書館、近江町市場、主計町に東の茶屋街、目標を定め、通りを歩く。たまに迷ったりしながら。なかでも良かったのは、昭和通りから鞍月用水を辿り、市立図書館をめざし、大野庄用水を辿って戻ってくるというルートで、素朴さ、金沢という街の風情、情緒がおおいに感じられた。

引き延ばされた時間のなかでこそできうることは思いながらも、歩いてみると知っているはずの街が違って見えてくる。それが、今、おもしろい。

大久保 和澄 (21期 APA)

「仕事を選ぶことが、人生を選ぶこと。」私が、社会にでて、今、強く感じている事です。日本人は、仕事を選び、その範囲内で人生を決めますが、欧米人は、まず人生計画を立て、それを実現させるために仕事を選ぶといひます。私は、1年後レベルアップしている為今何をすべきか、真剣に考え行動しています。気付いたときがスタート地点です。今仕事をされている方も、今から就職する方も、仕事によって人生の枠が決まる事を、今一度考えてみてはいかがでしょうか。

南堀 昇 (22期 日揮株式会社)

満員電車での通勤に嫌気が差し、自転車通勤に切り替えてまだ2週間だが、同じように高専生当時、自転車通学していたあの頃の自分を懐かしく思い出すことがある。自転車通勤だけでなく、仕事の方でも高専生のときに授業で習った同じことを行っている。壁面断熱材の熱貫流率の検討、鉄筋コンクリート造の基礎の計算、事務所建築物の基本設計、CADによる図面修正等々。今のところ、新卒社員の私ができる仕事が、極限られた範囲でしかない中で、学生時代の勉強がテストのための勉強ではなかったのだと、徐々に感じられるようになってきた。それと同時に、戸惑いながらも実際の仕事に携わる緊張感と責任感を徐々に持ち始めている自身の存在に気づいてきた。

西野 絵里子 (25期 豊橋技術科学大学4年)

大学にきていまさらながら建物を建てるためには、本当にいろんなことが必要なんだとつくづく実感する。私は、高専ではいつも設計課題しかしていなかったような記憶がある。高専時代は、そんなに大切ではないと思って、おろそかに聞いていた構造系の授業にしても、今にしてはちゃんと勉強しておけばよかったと思うし、もっと、本を読んだり、旅行にいったりしていたらよかったと思っている。自分の思っていることを建築に表現しようと思ったとき、今までふと見逃していた日常生活すらも大切に思える。とにかく、今はさまざまなことに興味をもって、なるべく集中しながら何事も取り組みたいと思っている。

1. 全国高専建築シンポ・コンペ2000

現在石川高専では、昨年第23回四高専建築シンポジウムで米子高専が企画した公開設計競技を更に展開させ、四高専に留まらない、全国規模のシンポ・コンペを企画、実行中です。

「地域との関わり」「実物制作」をモットーに、津幡町を舞台に「街中に住み込むためのBOX」という課題にて行われます。

課題の概要は、1820mm四方のフレームを、町の機能を担いながら、町に住み込むためのBOXへとデザインするというものです。「住み込む」という定義は提案者のアイディア次第です。

(詳しくはホームページでもご覧になれます。)

<http://www.ishikawa-nct.ac.jp/lab/A/www/sympo/sympo.html>

9月2日には公開制作、審査が津幡町で行われ、また翌3日には、この企画に対する津幡町の理解、協力により、同町で「どまんなかフェスタ」というお祭りが行われます。



改めて考えてみれば、石川高専は津幡町にありながら、このように地域と交流する機会は、今までほとんどなかったのではないのでしょうか。

ではなぜ、このような交流が生まれたのでしょうか。その背景には、新聞やテレビでも取り上げられましたが、3月20日に大型模型(12.5畳)を用いて津幡町福祉センターで行われた、石川高専と津幡町商工会の共催による「津幡町中心商店街活性化提案」の発表や、地域技術相談室を介して行われた相談、協議の積み重ねがあったということ、きちんと知っておく必要があるでしょう。

この交流の「はじまり」を大切に、育てていくためにも、期間中ご都合の合わせられる方は一人でも多くご覧になっていただけたらと願います。

2. 校舎増築報告

石川高専キャンパスは、専攻科や地域共同テクノセンターの設置、教室狭隘化に伴う改修工事計画などにより、その様相を大きく変えようとしています。そこで、現在着工し始めている新・低学年教室および地域共同テクノセンター棟(RC4階建延2000㎡)についてお伝えします。

現在一般棟を河北潟側へ延長するように工事が進んでいます。ここには、文部省の教室面積の基準改訂によって実現することになった低学年の教室(10クラス)と、昨年度に実施された地域共同技術相談室での活動が認められ、設置されることになった地域共同テクノセンターが今年中に完成する予定です。文部省の基準改訂により、学生40人の教室のサイズは80㎡になります。

(この大きさは、建築棟2階の一番大きい教室4Aと同じです。)



3. 非常勤講師紹介

平成12年4月1日より、土田義郎（つちだよしお）先生が、建築学科非常勤講師として着任されました。

略歴： 昭和36年 6月生まれ 神奈川県横浜市出身
昭和60年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
平成2年 東京大学大学院博士課程単位取得退学
平成2～4年 東京大学工学部建築学科助手
平成4年 金沢工業大学専任講師
平成10年 金沢工業大学助教授

専門： 音環境評価、サウンドスケープ、環境心理

担当： 建築環境工学（音響）

一言： 環境工学の楽しさや重要性を建築学科に学ぶ若い方々に知ってもらおうべく
頑張りたいと思います。今私は、音風景という視点から地域の環境を
とらえる研究をしています。

4. 建築CADデザイナー検定3級受験結果

昨年度より、建築学科では、熊澤先生と内田先生の指導のもと、建築CADデザイナー検定資格試験に取り組んでいます。全国建築CAD連盟主催のこの資格試験は、今春で第15回になります。試験は学科（90分）と実技（5時間）からなり、学科試験ではパソコン概論と建築概論（建築法規2級建築士程度）、実技試験では木造2階建て住宅のラフな平面図を元に、CADソフトを使用して、各階平面図、立面図、断面図またはパースをA2用紙にレイアウトすることが要求されます。春休みや放課後に勉強会を開き、本校から35人が受験しました。その結果以下14名が合格しました。おめでとうございます。

3年：界 幸成君、平田 永さん、棒田 恵君

4年：今本 紋さん、川岸 昇君、小坂 真美さん、小森 睦巳さん、杉本 智恵さん
森 史子さん

5年：木曾 敬資君、坂本 瑞穂さん、田中 梨沙さん、中川 紗織さん、村上 かおりさん

5. 専攻科1年生の一言紹介

専攻科がスタートしました。放送大学や2級建築士受験、夏期インターンシップなど、多くに取り組みながら動き始めています。OBの方々にも、また何かとお世話になると思いますので、よろしくお願い致します。とのことでした。

加藤 拓也（26期）

初めまして、加藤拓也（25+1期）です。専攻科の授業に、“放送大学”というのがあるのですが、これが眠くないときでも眠くなります。45分間（時には90分間）“教科書の朗読テープ”みたいなものを聞かされるのは、勘弁してほしいです。これから2年間頑張っていきたいと思いますので、皆さんよろしく申し上げます。

金田 庄平 (25期)

自分はこの専攻科に入る人の大半と違って高専を卒業後すぐに専攻科に入ったわけではなく、一度会社に就職した後退社してここに入ったわけですが、何と言いますか一度短いながらも社会に出ると学校の存在が非常に有り難いモノだと痛感できます。在学中に分かれれば良い物なんでしょうが、なかなかそうは行かない様で、今後はどういう物かしっかり考えながら進んでいきたいと思えます。

久保 幸恵 (26期)

入学当初、受講課目の大半が選択課目である事や、一部の授業がテレビ・ラジオによって行われる事(放送大学)に戸惑いを感じていましたが、今ではもう感じなくなりました。今後、インターンシップや特別研究、学位取得試験などいろいろありますが、専攻科の第一期生として相応しい学校生活を送れるよう努力していきたいと思えます。

粟原 知子 (26期)

専攻科は、研究ばかりする所だと思っていました。大学のように好きな勉強ばかりできるというイメージでした。一応、選択科目が多く設けられていますが、今まで勉強したことのない機械や電気や電子情報関係の科目も勉強しなくてはならないということが大変です。レポートも多く、本科にいた頃よりも忙しい毎日をおくっています。

小林 健介 (26期)

本科建築学科から専攻科の環境建設専攻の方に入ったわけですが、正直な所少しなめていたような気がします。放送大学がなんと言ってもキツイ。あの退屈な授業で試験されるとツライ。同じく厳しさでも、2級建築士の勉強の方がよほどましです。まだ、この専攻科スタイルに慣れませんが、これからうまく時間をやりくりして、充実した日々をおくりたいと思えます。

杉林 清二 (21期)

専攻科設立を良い機会にもう一度勉強をしようとおもい、戻ってきました。毎日を放送大学、講義、特別研究、そしてレポートに追われています。特に数学には頭がバンクしそうです。卒業、学士習得のためには頑張らなくては。あとは1級建築士の試験勉強もありました。結構忙しい毎日を送っています。

嶺 隆彦 (14期)

本科を卒業してから13年ぶりに学生となりました。しかも社会人学生として・・・・・・
仕事と学生の両立はなかなか大変ではありますが、結構楽しくやっています。専攻科が出来て初めて(第1期)と云うことで、まだまだ改善の余地も、あるような気もしますので、それはこれからみんなで、より良い専攻科を築き上げていこうという気持ちでいます。

山木 洋平 (26期)

専攻科に入って最も印象強いことは、レポートが多いということです。1つのレポートを終えるたびに、「さあ次のレポートは何だっけ?」といった感じで、いつもレポート提出に追われています。同時に2級建築士の受験勉強もしています。高専に在るうちに取ってしまいたいですね。毎日は大変ですけど、プライベートは結構充実しているので苦ではないです。

ほおづえ会からのお知らせ

1. 支部情報

中部支部：現在、山本進一氏(2期)を中心に支部設立準備が進められています。

関西支部：現在、井口秀栄氏(2期)を中心に支部設立準備が進められています。

関西地区にお住まいの方で、支部設立準備のお手伝いをしていただける人を、募集中です。

連絡先：TEL:06-6831-0564 (井口 秀栄)

北陸支部事務局：〒932-0833 富山県小矢部市綾子168 (株)吉田組内

TEL / FAX:076-492-7463 E-mail:hozuekai@anet.ne.jp

事務局長：富樫 吉規(20期)

関東支部事務局：〒105-0013東京都港区浜松町1-11-6 あずまビル4階 (株)ツツキ東京支店内

TEL:03-5470-1941 FAX:03-5470-1946

事務局：宮本 進治(10期)・竹内 伸好(13期)

2. 住所変更の届け出のお願い

住所・勤務先等の変更があった会員は、ご面倒でも下記事務局までご連絡ください。

3. 会費納入のお願い

ほおづえ会は、会員のみなさまの会費によって運営されています。

平成12年度会費の納入にご協力お願いいたします。

4. 原稿募集

会員のみなさまより原稿を募集しております。近況報告・ニュース・ご意見等テーマは、問いません。下記事務局まで、郵送・FAX・E-mailにてお送りください。

編集後記

先日富山方面で、ほおづえ会つながりの有志による「建物見学会」に参加しました。

いわゆる有名な建物を見て廻るという事に対してどうか？という意見もあるでしょうが、卒業して10年以上もたっているにも関わらず、先輩達と「ここがスゴイ」とか「ここは変だ」などと学生時代の製図室ののりでワイワイ言い合うことは非常に楽しく、まさに時間の経つのも忘れるという感じの一日でした。

今回は行く前前日ぐらいに突然企画されたので非常に少人数でしたが、もう少し企画自体に勢いがついてきたら、是非もっと大人数で行けたらなと思います。

広報委員長：山岸 学(16期)

平成12年6月25日発行

編集／発行 石川工業高等専門学校建築学科同窓会事務局

〒920-0022 石川県金沢市北安江1丁目6番27号 専門学校ESSEテクノカレッジ金沢内

TEL 076-234-3311 FAX 076-234-3432

E-mail:hozue@anet.ne.jp